

地区大会、青少年学友フォーラムに参加して

名古屋中ロータリークラブ
柴田 裕二郎



発表する高校生青少年たちのしっかりとした発表を聞いて、ロータリーとして青少年に非常に貴重な体験と成長の機会を提供できていると感じた。体験は貴重な機会であるので、こういう機会をロータリーとしてさらに増やしていくことは、青少年奉仕として重要であると感じた。

米山は海外からの留学生にとっても有効な支援を提供していて、留学生たちは日本に感謝し、将来日本あるいは世界に対して貢献してくれると期待できると感じた。

インターアクトはとても素晴らしい活動と思った。月2回のミーティングはコミュニケーション能力を磨くし、年数回の奉仕活動は社会貢献の精神を身に着けることができ、将来社会の役に立てる青少年を育成していると感じた。

RYLAは青少年に同じ年頃の仲間との出会いを提供し、活動を通じてお互いに意見を交わしたり行動したりすることでリーダーシップを磨くという素晴らしい活動だと感じた。

ローターアクトは米山、インターアクトやRYLAなどロータリー活動に参加した青少年たちの卒業後の継続活動を可能にする受け皿のような機関であり、継続は力であるので素晴らしいと感じた。

青少年交換事業は文字通り日本と海外のそれぞれの留学生を互いに派遣受け入れる交換システムだ。

交換留学生が滞在したホストファミリーの写真を見て、ロータリーは世界規模で実際に動いているのだと感じた。

どの留学生も留学初期には言語や、ホストファミリー、学校の同級生たちとの人間関係に悩まされたのは当然だが、それを乗



り切り、たくましくなって帰国してきたと十分に感じる事ができる発表だった。それにしても言語の準備をほとんどしないで行く人がほとんどなのは改善すべきと感じた。

勢いや勇気や憧れでエイッと行ってしまった留学生たちには貴重な財産が得られたと思うと、ロータリー活動が社会貢献していると感じた。

